

親鸞さまの

【本文】

南無阿弥陀仏の回向えこう

恩徳 広大不思議にて

往 相回向の利益には

還 相回向に回入せり

【意記】

南無阿弥陀仏この阿弥陀を抛り所
になさい、という仏様のお心が、私達
に向け与えられたということとは

阿弥陀様の広大なお徳と、人の思いや
言葉遙かに超えてたお心が形として
現われた、ということですよ。

その南無阿弥陀仏には、大きく言て
二つのことが含まれています。一つは、
私が極樂に往かせて頂く、ということ。

もう一つは、成仏後の私が極樂から現
世に還って阿弥陀様のお手伝いをする
ということですよ。

【私の味わい】

あるお宅に初めてお参りに行った時のことです。はつきりとは見なかつたのですが

お仏壇の横に猫のぬいぐるみのようなものが置いてありました。特に気にせずお勤めを
始めると、気のせいでしょうか。そのぬいぐるみが少し動いたように感じました。いやそ
んなはずはないと気を取り直し、やがてお輪をカーンと打たところ、その置物と思わ
れたものがニャーと鳴き声を立てて畳に飛んできてビククリしました。そこにあて動か
ないものだと思っていたのは勝手な思い込みで、実は自由に動き回れるのが本来であつた
という出来事でした。

これは卑近な例ですが、以下のことを強調するために書きました。極樂で成仏する
ということ、仏様に成るといふこと。その仏様を極樂から外に出ない、動かないお方と
して捉えてしまてははいないでしょうか。仏様に成るといふことは、無住処涅槃
とも表現されます。つまり、住処を定めて安閑としているのが仏様ではなく、まだ迷
ている人、阿弥陀様を心の抛り所にしない人の元に駆けつけて、南無阿弥陀仏を聞け
よ、信ぜよ、と称えよとおすすすめ下さっている。一つ所に留まることなく、常に動き働き
続けておられるお方が仏様なんだよ、ということですよ。

阿弥陀様がお開きになつた極樂浄土に亡き人が往き、成仏させていただいた。それ
は、往たと同時に還てこられているのです。そう思えるのは、阿弥陀様のおかげで

す。阿弥陀様を心の、人生の、生き死にの抛り所にさせて頂いたおかげです。(悠本